

## 福生市議会

## 正和会だより 第56号

令和7年3月  
発行  
福生市議会正和会  
責任者  
佐藤 弘治

●正和会ホームページ  
<https://fussa-seiwakai.moo.jp/>  
●メールアドレス  
fussa-seiwakai@drive.ocn.ne.jp

福生市議会正和会

検索

## ごあいさつ

会長 佐藤 弘治

日頃より市民の皆様には正和会の活動にご理解ご支援いただきありがとうございます。

正和会では1月30日から2月1日にかけて北海道登別市と恵庭市の行政視察を行いました。全国市議會議長会基地協議会の副会長市である恵庭市には、陸上自衛隊の駐屯地があります。福生市は横田基地を抱えており、同じく基地を抱える自治体との横の連携が重要です。現地を見て、当事者の話を聞き、



[左から] 仲間 正司・清水 義朋（相談役）・小澤 芳輝・小林 貢（政調会長）・佐藤 弘治（会長）・武藤 政義・山崎 貴裕（総務会長）・幡垣 正生・森田 哲哉

## 令和7年度福生市政に関する要望

正和会では、55項目について、要望いたしました。主な項目は下記のとおりです。

## 【暮らし、安全・安心対策】

- ①物価高騰対策
- ②防災対策の充実
- ③自転車等の安全利用促進及び道路交通法の改正を踏まえた市民への啓発
- ④安全で利便性の高い歩行者空間の確保



## 【福祉、住まい】

- ①子ども家庭センターにおける包括的な相談・支援体制の充実
- ②障害者（児）への在宅・通所支援の強化
- ③地域福祉の担い手の確保
- ④住まいの省エネバリアフリー住宅改修等工事助成事業の更なる充実

## 【教育】

- ①教育センターを核とした、ア いじめ、不登校対策の強化、イ オンライン相談の検討等
- ②幼保小中連携教育の一層の推進と、小中一貫教育の検討の推進
- ③児童虐待防止対策の強化
- ④通学路の安全対策（交通・防犯・災害等）

## 【環境対策】

- ①有機フッ素化合物（PFAS）の市内地下水への影響を確認するための継続的な調査の実施
- ②熱中症対策の強化（高齢者への啓発、民生委員による啓発、式典時の予防対策、町会・自治会の熱中症対策への補助）
- ③公園（トイレ・ベンチ等）の施設整備及び良好な環境づくり

## 【商工業振興対策】

- ①社会情勢に対応した、市内事業者への経済対策の充実
- ②新たなまちの賑わいの創出
- ③空き店舗活用によるにぎわいづくり

## 【その他】

- ①古民家等の文化資産の有効活用
- ②DXの更なる取組みとして、ア ChatGPTの活用、イ 行政手続きにおけるオンライン化の更なる推進、ウ コミュニケーションアプリ（SNS）の活用

## 石川義郎議員が辞職

福生市議会議員として、約5年6か月正和会のメンバーとして共に活動してまいりましたが、一身上の都合により令和6年11月22日付けで、辞職しました。

感じ、基地対策の充実に向けた活動に繋げていく必要があります。

登別市は福生市と同じく昭和45年に市制施行された自治体で、職員派遣をこれまで行ってきた経緯があります。議会改革にも優れた実績をもっていますが、今回は学校の適正規模・適正配置の取り組み、いわゆる統廃合に関する調査をしてまいりました。公共施設の総量抑制の議論とともに検討していくなければならない最重要課題の一つです。

最大会派としての責任を果たすべく、難しい課題にも研究を積み重ね、持続可能なより良いまちづくりにこれからも取り組んでまいります。皆様にご指導いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 令和7年度 東京都西多摩建設事務所への要望事項

1. 福生都市計画道路3・3・3の1号新五日市街道線の拡幅整備事業促進（国道16号線と五日市街道との交差点接続調整を含む）
2. 福生都市計画道路3・4・2号志茂中央線（多摩橋通り）の整備促進
3. 福生都市計画道路3・3・30号武蔵野工業線（産業道路）延伸の促進
4. 主要地方道29号立川・青梅線（新奥多摩街道）の歩道整備及び電線類の地中化の促進
5. 都道165号伊奈・福生線（あきる野市側）の圏央道インターへのアクセス道路としての整備促進
6. 都道の道路照明灯のLED化の推進
7. 都道歩道の根上がりによる段差の解消とインターロッキングの緩み点検及び補修
8. 志茂中央線整備事業及び武蔵野工業線延伸事業の完成に伴う多摩橋通り原ヶ谷戸第二交差点周辺の渋滞対策
9. 主要地方道7号杉並・あきる野線（睦橋通り）の渋滞緩和

## 北海道恵庭駐屯地視察（令和7年1月31日）

恵庭市には、陸上自衛隊の北恵庭駐屯地と南恵庭駐屯地があり、今回私たちは、南恵庭駐屯地を現地視察いたしました。

所在地は恵庭市恵南63番地に位置し、駐屯部隊は第3施設団、第73戦車連隊、北部方面後方支援隊第101施設直接支援大隊、南恵庭駐屯地業務隊としての任務を行っていました。その部隊設備をバスの車内より見学中、バスが雪に阻まれ動けなくなるといったハプニングもありましたが、さいわいにも自衛隊のブルドーザーによる除雪によりバスが動けるようになりました。

恵庭市内には、約3,000人の現職自衛官とその家族、約1,300人の自衛官OBで構成する隊友会、さらにその他OBとその家族を含めると恵庭市の人口の内約2割を占める自衛隊関係者が居住しています。

自衛隊の駐屯地や演習場に加えて隊員が地元に所在することで、消費活動、防衛施設周辺整備事業、隊員の社会活動等が促され、恵庭市の財政、市政全般や地域経済及び市民活動に大きく貢献しているのがわかりました。

今回私たちは、自衛隊の役割を説明していただいた後に90式戦車に搭乗する機会もいただきました。今回の視察研修を当市の基地対策の参考としてまいります。



## 北海道登別市を視察(令和7年1月31日)

少子化の進展や校舎の老朽化は、福生市を含めた多くの自治体の課題の一つでもあります。その課題に先進的に取り組んでいる登別市の「学校の適正規模、適正配置について」視察しました。



令和3年度に「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定。

このグランドデザインにおいて、統合が予定されている中学校区では検討委員会を組織。さらにその下にまちづくり部会と教育環境部会を設け学校の統廃合について検討。

まちづくり部会では、経済関係者や観光産業関係者を招くなど、各方面との意見交換を行いながら学校が地域で担ってきた役割を整理し統合となった場合のまちづくりへの影響を検討。

教育環境部会では、子どもたちにとって、どのような形で教育の場を確保していくのが望ましいのかを第一に検討を進めた。他校との統合ありきではなく、まずは学校小規模化のメリットとデメリットを整理し検証。

児童及び生徒、未就学児童の各保護者を対象に意見交換会や中学校在校生へのインタビューを行う他、学校統合を経験した教員を招くなどし意見交換。さらには学校統合を経験した他中学校の教諭を招き、統合による教育環境の変化を中心に意見交換。また学校統合を経験した教諭を招き、意見交換を行ったり統合する中学校OBとの意見交換を行っています。

登別市ではこのように、将来を見据えたまちづくりを視野に入れ、保護者や地域の団体等と意見交換、連携をしながらの取り組みを進めていました。これを参考にさらに研究し、福生市に相応しい学校の姿を提案して参ります。

# 正和会所属議員活動報告



**仲間 正司**

総務文教委員長  
議会運営委員



**森田 哲哉**

建設環境委員  
横田基地対策特別委員  
福生病院企業団議会議員



**山崎 貴裕**

議会運営委員長 総務文教委員  
横田基地対策特別委員  
西多摩衛生組合議会議員

市民の皆様の声を市政に反映させる為、全力で活動してまいりました。議員活動に挑戦する中で、多くの課題に直面しながらも、一歩ずつ前進してきたと感じています。私の主な取り組みについてご報告いたします。

まず、地域の皆様の声を直接伺うことを大切にしてきました。特に、道路や公園の整備や、子育て支援に関するご意見が多く寄せられ、その声をもとに一部地域では歩道の改修が進むなど、具体的な成果を上げることができ、また不妊治療の助成の取り組みを進めてまいり令和6年度当初予算に反映し、新たに助成制度を開始して頂きました。さらに地域の防災訓練に参加し、防災意識を高める活動を行っています。この2年間、多くの方々と意見を交わし、市政に携わる責任の重さを改めて実感しました。今後も市民の皆様の声を大切にし、福生市がより住みよいまちとなるよう努力を続けてまいります。引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



**小林 貢**

市民厚生委員長  
議会運営委員  
福生病院企業団議会副議長

市民のみなさまには、ご健勝にてお過ごのこととお慶び申しあげます。

議員として、2期目の近況報告をさせていただきます。

2期目ということもあり、議会での発言回数も増え、また、正和会の役職の仕事等も多くなり、日々活動をさせていただいております。

また、令和6年4月の福生市長選挙や10月の衆議院選挙では、それぞれ候補者の応援演説なども福生市内において行わせていただきました。

令和6年7月・11月及び令和7年1月には、牛浜駅東口駅前広場及び福生駅東口のペデストリアンデッキにて、熱中症対策や福生市防災訓練・イノシシ対策・健康づくり・不登校対策など、議会での一般質問の内容をご通行者等の方々にご報告をさせていただきました。

政治により、市民のみなさまの暮らしが変わることを実感しながら、これからも、みなさまのための福祉の向上に取り組んでまいります。

引き続きのご指導、ご鞭撻をお願い申しあげます。



**小澤 芳輝**

市民厚生副委員長 議会運営委員  
横田基地対策特別委員  
瑞穂斎場組合議会議員



**佐藤 弘治**

横田基地対策特別委員長  
議会運営委員 市民厚生委員  
西多摩衛生組合議会議長

日頃より皆様にはご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

現在私は、瑞穂斎場組合議員を拝命しております。市民の声として、葬儀・告別式の日程が、お亡くなりになられた日から10日以上かかっているがどうにかならないのかというものです。

現在、瑞穂斎場の火葬場使用実績は構成4市の合計は（令和5年10月1日～令和6年9月30日において）年間4,284件となっています。また構成市以外の火葬場使用が約230件有りますので、年間約4,500件以上の火葬を行っていることになります。

年末年始、友引の日数を引くと1日約15件の火葬を行っていることになりますが、斎場の火葬炉は8台なので点検等による休止期間を考えると、使用率は限界に達していることが解ります。対策としては、一日に2回火葬炉を使用すること、友引でも火葬炉を使用することによってやっと回している状態です。

市民の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、ご理解をお願いいたします。

市議会議員としての3期目も折り返し地点を迎えました。一般質問ではオスプレイの鹿児島県沖合での墜落や一時飛行停止、泡消火薬剤PFOSの漏出に関し質問しました。市民の安全・安心を第一に、米軍や国に対して要請を行うよう市に求めました。

その他、福生駅西口地区再開発、東口の富士見通りの拡幅をはじめとする持続可能なまちづくり、教育では学校の適正規模・適正配置や道徳教育、キャリア教育、シチズンシップ教育など未来にるべき教育環境や人の力を引き出すための教育について、行政改革分野では、他自治体や団体との連携強化を訴え、郵政との包括連携協定を提案し実現。

「生きがい」が生まれるまち福生のために、あらゆる分野で「新しく、新しく」改革を進める事が必要です。「議会改革」により次期は議員の定数が削減されます。より開かれた議会を目指して議会基本条例の制定や議会報告会、委員会中継の実現に向けて議論を深めています。



**幡垣 正生**

建設環境委員  
東京たま広域資源循環組合議会議員



**武藤 政義**

市議会議長  
総務文教委員



**清水 義朋**

福生市監査委員  
建設環境副委員長 議会運営委員  
横田基地対策特別委員

日頃よりご支援、心より感謝申しあげます。議員活動も10年になります。私自身は一貫して市民の皆様の身近な所で、寄り添える議員活動を目指してきました。その中で多くの相談事に対応して参りました。市民から寄せられる問題は多岐に渡っております。場合によっては解決の見えない問題にも対応しなくてはなりません。まず話を「聞いて」「考えて」「動く」事をモットーに引き続き活動をして参ります。私の信条は『スポーツ・文化を通じて人づくり街づくり』に努める事です。楽しく生きる為に、スポーツを通じて健康づくりができる環境整備に努めます。文化活動、特に「音楽のまち福生」を応援しています。老若男女、市民との会話から、必要な事を考えて進めます。「教育」に関しては、安全安心な教育環境と地域で育てる教育活動を推進して参ります。「福祉」は高齢者そして障がい者への支援の環境を整えて参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和5年5月16日、福生市議会第29代議長に就任させていただき、あと1ヶ月余りで2年の任期を終えようとしています。福生市政において、極めて重要な機関である福生市議会において、その運営を司ることを重大な責務と捉え、全身全霊、誠意を持って取り組んでまいりました。

前半の一年間は全国市議会議長会基地協議会の会長を務めさせていただき、基地を抱える全国の仲間達と一致団結して基地対策に取り組みました。全国の加盟店市町村議会の先頭に立って活動できたことに感謝しております。

後半の一年は東京都市議会議長会の副会長を務めさせていただきました。会長を支えながら、26市の議長さんたちと連携して、色々な場面で協力し合えたことには大きな達成感がありました。

福生市議会の公務をはじめ、この2年間、福生市議会の代表として様々な場面で活動させていただくことができました。ご協力いただいた皆さまには心より感謝を申し上げます。

最新の人口推計から20年後の福生市の人口は46,770人。そして40年後には35,282人と推計されています。西多摩でも早くから人口減少が始まつたが市では、子育て世代の人口誘致に力を入れ、その効果は各種指標等で現れてはいるものの、更なる人口減少に対処していく必要性が出てきています。

市が管理する施設の統廃合や広域連携等も必要となります。それら施設の後の利用や広域で連携することによりスケール感のある、そして官民連携なども模索しながら施設整備の必要性を提案させていただいている。

合わせて昨今の働き方改革や人材確保の難しさは市としても課題となっていて、少ない人材で市民サービスを行うためにDXの推進も大切な取り組みとなっています。こうした変化を対処的に考えるのではなく、市と共に将来を見据えた政策をこれからも提案していきたいと考えています。

それぞれ地域の課題については皆様の声に耳を傾けながら取り組んでまいります。